

氏 名：植木 博子

学 位 の 種 類：博士（看護学）

学 位 記 番 号：甲第 254

学位授与年月日：2024 年 3 月 8 日

学位授与の要件：学位規則第 5 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 林 直子（聖路加国際大学 教授）

副査 小山田 恭子（聖路加国際大学 教授）

副査 奥 裕美（聖路加国際大学 教授）

副査 松浦 典子（公立福生病院 看護部長）

論 文 題 目：慢性腎臓病患者の自分らしい意思決定を目指した新たな腎代替療法共同意思決定
支援プログラムの実装

博士論文審査結果

本研究は、慢性腎臓病患者が自分らしい腎代替療法を選択するための意思決定支援プログラムを開発し、その実用化を検討することを目的としている。Three-talk model を活用した Shared Decision Making (SDM) のトレーニングを受けた看護師が「腎代替療法共同意思決定支援プログラム」実装し、看護師の意思決定支援に関する自己効力感の変化を primary outcome、支援プログラムの実装アウトカムならびに患者（家族を含む）の腎代替療法の選択に関わる意思決定に対する葛藤を secondary outcome として介入の効果を評価した。5 名の看護師と 10 名の慢性腎臓病患者を対象としてプログラムを実施した結果、看護師の「領域固有の自己効力感（SSE）」は実装後に上昇していた。腎代替療法に関する意思決定に至った患者は 4 名であり、意思決定における葛藤は意思決定の前後で、Total score 含め、すべての項目で意思決定時に葛藤得点が増加していた。

審査では、計画書審査後の研究倫理審査を経て変更された研究タイトル、達成目標、アウトカムの設定について、変更の意図と本研究全体の目的、実施内容との整合性の観点で一貫性を果たせるよう再考するよう指摘があった。これに対し用語の定義と研究の概念枠組み、さらに本研究の介入の位置付けを再検討し、最終的に意思決定支援「プログラムの実装」へとタイトルを修正し、システムとプログラムの相違を明確に記述した。また研究目的と達成目標の記述の中に実装アウトカムが含まれていないこと、primary outcome (p/o) を看護師の自己効力感とする必然性に関する記述が不足していること、分析はノンパラメトリック検定を行い必要な統計量を結果に記すこと、論文の本文、資料、表中の文を推敲すること（和文、英文とも）、図表の解像度を上げて読み取り可能な状態にすること、誤字脱字を修正することなど多くの指摘があった。これらの指摘に対し順次修正を施し、全審査委員が修正を確認した。

本研究は、コロナ禍かつ看護スタッフの不足など多くの困難がある中で、研究者としての真摯な姿勢とケアの質向上に対する熱意により完遂された、極めて実践的で意義のある研究である。特に意思決定支援に携わる看護師はクリニカルラダー3 以上であることの必要性を示し、看護師の底上げに寄与しうる、臨床的にきわめて価値ある研究であると評価された。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。